

氏名(本籍)	アミーラ・サイド・アリー・ユーセフ (エジプト)				
学位の種類	博士(学術)				
学位記番号	博甲第6295号				
学位授与年月日	平成24年7月25日				
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当				
審査研究科	人文社会科学研究科				
学位論文題目	宮澤賢治の「少年小説」と利他意識についての考察 -「新しい、よりよい世界の構成材料」と「立身出世の意味」を中心として-				
主査	筑波大学教授	博士(法学)	辻中	豊	
副査	筑波大学教授	文学博士	川那部	保明	
副査	筑波大学教授		仲田	誠	
副査	筑波大学教授	文学博士	佐藤	貢悦	
副査	中央大学教授		保坂	俊司	

論文の内容の要旨

本論文は、宮澤賢治の「少年小説」を、賢治が志向した「新しい、よりよい世界の構成材料」と、少年主人公たちの「立身出世」の関係性を中心として考察する。その際、三つの疑問が中心となる。第一に、賢治の「心象」が、自身の童話において、どのように反映されたのか、第二に、この「心象」をもって賢治は、どのような「新しい、よりよい世界の構成材料」を「提供」しようとしたのか、第三に、賢治はその「少年小説」を通して近代立身出世主義に対する自身の反感をどのように表してどのような「立身出世」を描こうとしたのか、である。対象作品は「ポラーノの広場」、「銀河鉄道の夜」、「グスコブドリの伝記」という代表的な三つの少年小説のそれぞれの系作品群である。本論文は、宮澤賢治の「少年小説」における「新しい、よりよい世界の構成材料」について探求し、結論としてそれらの「構成材料」とはなにかについて明らかにするものである。

三つの疑問への主要な分析結果、発見は次の通りである。

第一、「ポラーノの広場」をはじめとして「銀河鉄道の夜」から「グスコブドリの伝記」にかけて、それぞれの系作品群のストーリーや物語に「カタカナ」で書かれて登場した名称、たとえば「キュースト」、「ファゼーロ」、「ジョバンニ」、「ブドリ」などのような珍しい人物名、しかも「イーハトーブ」や「ポラーノ」などといった不思議な雰囲気を持った舞台の名前は、現実にある名前を指すのではなく、賢治の豊かな「心象」の中に存在している架空の名前である。

また、花に付いた番号や番号の付いた光に頼るなどという「ポラーノの広場」系作品群の広場である舞台への幻想的な到着手段の描写から、「ポラーノの広場」系作品群の舞台は作者の独自の心象から生まれた舞台だということが分かった。そして、賢治は「銀河鉄道の夜」系作品群において物語の舞台を宇宙にある銀河においた。その舞台への到着方法を、意外なことに汽車に設定するだけに止まらず、賢治は、「人々が出会ったり別れたりしていた銀河行きの幻想的な鉄道」を、新しい人々と出会って新しい経験を身につけたり、知り合いの誰かと別れて人生のある段階を完了したりする、「まさに汽車の停留所めいた、さまざまな経験場面に満ちた人生」として描いた。そしてこの汽車で旅行を続けるために主人公が持たなければならなかった

「切符」と「その中の二枚のお金」は、「人生体験」と「それによる知識と能力」の象徴であった。「グスコブドリの伝記」系作品群の改訂版と決定版の舞台は、賢治が夢見たドリームランドとしての「イーハトーブ」という名前の場所である。草稿「ペンネンネンネンネン・ネネムの伝記」においては、舞台がどこに存在するか誰も分からない、空想上の「ばけもの世界」に設定した。

以上のように、賢治の夢見た「新しい、よりよい世界」は、地上にも宇宙にも幻想の世界にも、人間世界だけではなく、全てのものが生きる全世界まで、どこにでも存在し得る実存の「世界」だということを検討してきた。この世界は賢治の「心象中に、実在したドリームランドとしての日本岩手県」の「理想像」でもあれば日本だけではなくどこでも「理想世界」になりうるものである。

第二、賢治は、「ポラーノの広場」系作品群を通して、「挑戦」、「勇気」、「献身性」、それに「心理的成熟」に恵まれ、「勤勉生活」を成功裏に送り「上の世代への尊敬とその支援や指導」の下に「立身出世」もできた「少年主人公」ファゼーロを登場させた。年齢差や社会地位や職種の差異を超越した、「相互理解と尊重」、「約束厳守」、「利他性」や「恩返し」などの優れた性格によって成功した「搾取のない」「理想友人関係」を通して、酒やいかがわしい娯楽などがなくとも、他者の役に立つ仕事と芸術を一体化したユニークで理想的な「ポラーノの広場」を、「新しい、よりよい世界」の典型的な「事例」として、提供したのである。

次に、「銀河鉄道の夜」系作品群においても「挑戦」、「勇気」、「献身性」、「心理的成熟」、「恩返し」という価値観にも触れつつ、それ以外にも賢治は、永続の「友人関係維持」の基本的な条件として「うそをつかないこと」「友人間での正直さ」を提示した。ジョバンニおよびカムパネルラという子供たちを通して「親孝行」にも重きを置いた。さらに「みんなのさいわいを求めたジョバンニ」、「クラスメートを救って命を失ったカムパネルラ」、「みんなのために暗闇を明るくすべく自分の体を焼いた重要な登場人物として描出された蝸」を通して、賢治は、人生における「重要価値観」としての「利他性」のモチーフを何より強く描き、「利他性」の道徳性や好ましい影響に焦点を当てた。同時に、その「利他性」を重んじた少年主人公の考え方の形成における大人の登場人物の役割にも力点を置き、賢治は「若い世代の立身出世の実現過程における上の世代の役割」を強調し、親や年長者世代を尊敬し、彼らの支援や指導を受け入れることの重要性をも示した。

さらに、賢治は「グスコブドリの伝記」系作品群を通して、「特別な条件」下においてのみ「自己犠牲」に変貌する、「利他性」の特定の事例や「上の世代を尊敬し、彼らの支援や指導」を受けたことによって誰にも比べ得ない立派な「立身出世」ができた若者の「具体的例」を提供することにつとめた。マイナスの段階から人生が始まった主人公ブドリは「年長者の支援や指導」を様々な段階を通して受けたことが要因となって、他者の「利益」もしくは「利他」を優先させることのできる人物に成長し、大出世をしてイーハトーブ火山局心得の役職に就くことができた。出世したブドリが、自分の故郷の人々のために、楽しく安定した「新しい、よりよい」生活を実現させるべく、一人で火山を爆発させるという、自分を犠牲にするおそれがある危険な役目を果たしたという物語が、とりわけ「グスコブドリの伝記」系作品群の改訂版と決定版の主要テーマとして描かれた。草稿「ペンネンネンネンネン・ネネムの伝記」においては、ばけもの世界裁判長という非常に高い地位にまで「立身出世」に成功したネネムの裁判長の仕事振りを通して、賢治は「正当性」の重要性を描いたが、とくに、裁判長ネネムが自ら起こした、人間界への片足だけの出現という微罪に対しても、自身を厳しく裁いたという設定を通じて、「正当性」の意味を厳密に示してみせた。

以上、本論中に取り上げて考察してきた三少年小説の、それぞれの物語設定に関する解釈に基づいて、賢治が「提供」しようとした「新しい、よりよい世界の構成材料」のいわば「主要構成材料」を結論として次のように具体的に特定した。作品の中で特に強調されていると見なされる順に、〔一〕「利他性」、〔二〕「上の世代の指導と支援の下に実現される立身出世」、〔三〕「心理的成熟性」、〔四〕「親孝行」、〔五〕「恩返し」、〔六〕「献身性」、〔七〕「勤勉さ」、〔八〕「勇気」、〔九〕「挑戦」、〔一〇〕「正当性」、〔一一〕「仕事経験と芸術経験のバランスを取った生活活動」、〔一二〕「相互理解・尊敬」、〔一三〕「正直」、〔一四〕「知識や能力」、〔一五〕「約

束厳守」である。賢治は、これらの「一五構成材料」に基づき理想化された「新しい、よりよい世界」を、「夢が実現する場所」として、単に心象上の架空の場所としてではなく、現実を実現させることができるユートピア的なイーハトーブとして期待していた。

最後に第三の疑問について検討する。賢治は、おもに「目上の世代への従順」と「勤勉さ」や「献身性」などのもとに実現する立身出世の描写を通して「理想的な立身出世のあるべき実現方法」を強調しているように考えられる。近代立身出世主義に批判しながら、少年たちの社会的成功や現実的ではないほどの大出世をあえて描いたのは、当時の少年たちに夢と希望を与えるために、架空の夢物語を通して彼が考えたユートピア的な「新しい、よりよい世界」における立身出世の実現として描いたのである。そういう意味では、賢治の「少年小説」における立身出世物語は利己的で現実的な立身出世を意味していない、とも考えられるが、賢治にとって、夢に終わった「立身出世」が決して理想とされるものではなかったことは「ペンネンネンネン・ネネムの伝記」によく表現されている。ばけもの世界の大家判長となったネネムの慢心によって、人間世界に片足を出現させてしまった、という展開で物語が終わっている。ネネムの過失を描いたまま突然のように終結した物語の結末部分を考えて、賢治が立身出世を本来、人間にとって良きもの、努力の目標となるもの、として認めながらも、あからさまな立身出世に対しては違和感を抱いていたことを示している。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、宮澤賢治の「ポラーノの広場」、「銀河鉄道の夜」、「グスコブドリの伝記」という代表的な三つの少年小説の系作品群を、賢治が志向した「新しい、よりよい世界の構成材料」と、少年主人公たちの「立身出世」の関係性を中心として徹底的に分析するとともに、併せて宮澤賢治研究・批評を体系的に検討し、「心象中に、実在したドリームランドとしての日本岩手県」の「理想像」でもあれば日本だけではなくどこにもありうるものとしての「理想世界」を析出し、「新しい、よりよい世界の構成材料」のいわば「主要構成材料」として利他性から約束厳守までの一五の価値を特定し、現実のそれではなく、「新しい、よりよい世界」における立身出世の実現とは何かを示した研究である。

筆者自身も認めているようにこれらの作品群が書かれた時代背景への考察、宗教観や政治社会観と時代状況の関連などの文脈への十分な考察は今後の課題であるが、極めて多様で多彩な宮澤賢治研究をよく読み込み、代表的な三つの少年小説の系作品群との関連で、自らの三つの疑問を軸に宮澤賢治の理想的ドリームランドを再構成していった粘り強い洞察力は高い評価に値する。また、宗教論や政治思想との関連性が希薄であるというのは、本論文だけの問題ではなく、宮澤賢治に関する先行研究全体が抱える問題でもある。むしろ本論文は、その執筆のベースとして行った多様で多岐にわたる文献リサーチを通じて、これまでの宮澤賢治研究の全体像を見渡していることにもその価値をもつものである。この作業によって本論文は、立身出世や利他性のテーマをとおして展開されるべき、宗教観や政治社会観を含めた時代状況と切り結ぶ批評の必要性を、明示しているからである。

平成 24 年 5 月 16 日、人文社会科学学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと、本論文について著者に説明を求めた後、関連事項について質疑応答を行った。審議の結果、審査委員全員一致で合格と判定された。

上記の論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。